

出会いと発見の場を創り出せ!!

～OMRIS presents「異分野×交流会」～ (12037A)

かわしま いっこ
河嶋 伊都子 (生命環境科学研究科 博士課程前期 1年)



挑戦したい

「自分らしさとはなんだろう」。大学院への進学が決まった学部4年の夏、私はこの言葉を何度も自分に問いかけていました。自分が本当にやりたいことは何なのか。残された学生生活で何を考え、残していきたいのか。その答えのひとつが、団体「OMRIS」を自身で立ち上げるということでした。

とにかく新しいことに挑戦したい。行動力に任せて、周りを巻き込みパワーを発信したい。考えた末にたどり着いた「自分らしさ」はこんな単純な欲求だったのです。そして、この漠然とした想いを仲間と実現できる場、これが私にとってのT-ACTです。

文系・理系の壁

OMRISが発信したいメッセージは、私自身の進路の悩みを解決させた考え方でもあります。理系大学院生となった現在の進路希望は研究者ではなく、世間一般でいう所謂“文系職”に就くことです。その理由は、理系学生として得た知識や考え方がどんなフィールドでも応用できると気が付いたことだけではなく、「理系」学生らしい視点が異分野である「文系」職には必要であると考えたからです。

以前は、自分の勉強している専門知識が将来の役に立つのか明確にわからないことが不安で、経営学やチームマネジメントを学んでいる学生に対してコンプレックスを感じていました。実はこんな風に将来像が描けないことで、勉強に対してやる気が出なかったり、就職活動を恐れていた学生は文系・理系に関わらずとても多いのではないのでしょうか。しかし、そもそも文系と理系にはっきりとした境界線なんて引くことはできません。また超えてはならぬ壁が存在するわけでもありません。感じていたコンプレックスは学問の本質によるものではなく、その所属や言葉に縛られていることによるものだと思います。だからこそ私たちOMRISでは文系・理系の所属にとらわれすぎない自由な考えや学びの場を創りだし、多くの学生にもっと自分らしい活躍の場を



新たな分野・人との出会いは魅力的!

見つけていって欲しいと考えています。そして自分らしさを発揮する場では、今勉強している分野や専門性を捨てるのではなく、自分が頑張ってきたこと全てに自身をもって存分に活かして欲しいのです。

OMRISが目指す“異分野交流”

自分の専門性をその分野で活かすためにも、他分野で応用するためにも、自分の専門的な意見や考え方が周囲の人に「どう捉えられるか」を知っておく必要があると私たちは考えています。自分の分野の印象や他分野との相違点を把握することは、その分野には社会は何を求めているのか、そしてどんな可能性が秘められているのかを発見する大きな手がかりになるでしょう。その“発見の機会”とそれを生み出すための“出会いと会話の場”を提供することがOMRISの目的です。だからこそ、限られた勉強の分野だけではなくさまざまな切り口でターゲットを考えたイベントを開催し、そこで出会った人それぞれの個性あふれる意見が交換できる「異分野交流」を生み出していきたいのです。



異分野間の意見が飛び交うグループワーク

これから

OMRISの活動はまだまだ始まったばかりです。グループワークを行う交流会だけではなく、さまざまな分野で活躍する筑波大生のプレゼンを通して議論ができるイベント「LACK」や社会で活躍するサイエンスコミュニケーターやバイオベンチャーの方々の講演会も企画進行中です。新年度からは新メンバーも募集して、その一人ひとりが考える異分野交流の場、挑戦の機会を一緒に創り上げていきたいと思っています。ぜひ、皆さんも「自分らしさ」の発見・表現の場としてこのOMRISのイベントに参加して下さい!



Facebook : <http://www.facebook.com/tsukuba.omris/info>